ハグして ほほえもう デー

お日さまが さんさんと ふり注ぎ、まどに ついた つゆの しずくの 中で キラキラと かがやいています。トビーは 目を さますと、両うでを いっぱいに のばして、ほほえみました。

夕べは、うとうとと ねむりに つきながら、今日のための 計画を 考えていました。その 名も、「ハグして ほほえもう デー」。計画は いたって かんたん。できるだけ たくさんの 人たちに、ハグを して ほほえみかけることです。

トビーは、最初の 目標 である お母さんの 様子を うかがいました。ベッドから 飛び出すと、お母さんに 向かって 一直線。こしに 両うでを 回して、心の こもった ハグを しました。

「お母さん、おはよう！」

「おはよう、トビー！」お母さんも そう 言って、トビーを やさしく だきしめ ました。「すてきな ハグを ありがとう！ 1日を 始めるのに 最高の 方法ね。」

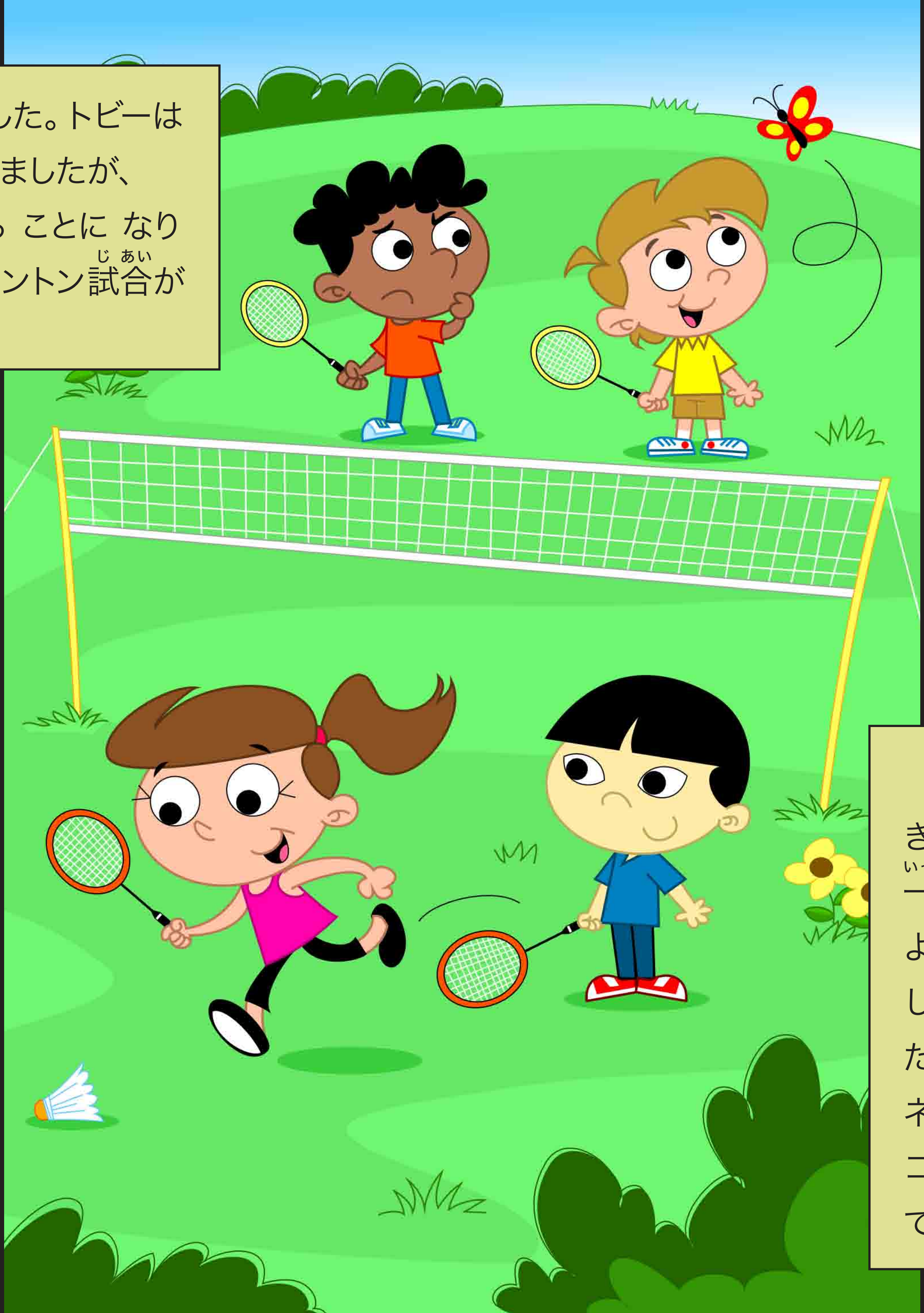
トビーは ほほえみました。これから 楽しくなるぞ！

朝食を 食べに ダイニングルームに 行くころまでには、トビーの 愛を 分け合う 計画は 調子づいて、最高潮に 達していました。よちよち歩きの 妹 ローレンを だきしめ、お父さんにも ほほえんで ハグを しました。そばを 通った 人は みんな、トビーから 最高の ほほえみを もらいました。

1日が 始まり、トビーは この「ハグして ほほえもう」計画を 実行するために、できるだけの ことを して がんばりました。ほほえんだり ハグを すると、みんなの 顔が 明るくなるのを 見て、トビーは 胸が わくわく しました。中でも 最高なのは、まわりの 人たちに ハグを すれば するほど、みんなも、もっと ほかの 人たちに ハグを する ようになった ことでした。

さて、午後に なりました。トビーは
友だちと 外で 遊んでいましたが、
バドミントン試合を する ことに なり
ました。トビーは、バドミントン試合が
大好きです。

子どもたちは 二つの
チームに 分かれました。
トビーと アーサー、
それに カーラと
ジョエルの チームです。
４人の 子どもたちは、
暖かい 日ざしの 中で
楽しく 遊んでいました。
試合では、カーラと
ジョエルの チームが
勝っていて、アーサーと
トビーの チームは、
なかなか 得点が
入れられません。



トビーは いらいらして
きました。アーサーが
一生 けん命 プレーしている
ようには 見えないからです。
しょっちゅう 空ぶりしたり、
たとえ 当たっても、羽根が
ネットを こえずに 落ちるか、
コートの 外に 出てしまうの
です。

「アーサー。」 トビーは、不満げに 言いました。「もうちょっと がんばってよ！ 空ぶりばかりじゃ ないか！」

アーサーは 肩を すくめて、一生けん命 やってるよと 答えました。「だけど、まだ 足りないんだなあ。」 トビーは ぶつぶつ 言いながら、また プレーを 始めました。

「いったーい！」 トビーが さけびました。「何で そんなこと するんだよ？」

カーラが サーブを したのですが、アーサーは 羽根を 打ち返そうと 前に 飛び出した 時に、トビーが すぐそばに 立っている ことに 気づかず、ラケットで トビーの 頭の 後ろを いやと いうほど 強く 打ってしまったのです。

「ああっ！　本当(ほんとう)に、本当(ほんとう)に、ごめんね。ただ羽根(はね)を 取(と)ろうと していただけなんだけど。」アーサーは がっくりした 様子(ようす)で 地面(じめん)を 見(み)つめていました。「本当(ほんとう)に、今度(こんど)こそ 羽根(はね)を 打(う)ち返(かえ)そうと 一生(いっしょう)けん命(めい)だったんだ。」

「ぼくが いる ことに 気(き)が つくべきだったんだよ。頭(あたま)を 打(う)つなんて。もう、君(きみ)とは チームを 組(く)みたくないよ！」

トビーは、いたい 頭(あたま)を なでながら、すたすたと コートを 出(で)て行(い)ってしまいました。ほかの ３人(にん)の 子(こ)どもたちは、どうしたら いいか わかりません。トビーが 原(はら)っぱを 出(で)ると、心(こころ)の 中(なか)で、今日(きょう)の 計画(けいかく)は どうしたのという 小(ち)さな 声(こえ)が しました。

（今日は、ハグして ほほえもう デーじゃ なかったのかい?） トビーは、イエス様が 自分の 心に そう 語られるのを 聞きました。（ほほえみと ハグは、愛する 心から 生まれるものだね。本当の 愛は、たとえ 物事が まちがった ほうに 進んでも、与え続ける ものだよ。）

トビーは、イエス様の 言葉について 考えてみました。アーサーを ゆるしてあげなくては いけない ことは、わかっています。愛を 示せるように イエス様に 助けを 求めて 祈ると、トビーは 友だちの ところに もどりました。

「アーサー、おこって ごめんね。」 トビーは、すまなさそうに あやまりました。「わざと やったんじゃ ないのは、わかってるよ。もっと がんばろうと していたって こともね。どなったりして、ごめんよ。」

アーサーが ゆるしてくれたので、トビーも 感謝の しるしに ハグを し、ほほえんで 言いました。「君が 友だちで よかったよ。」

「ぼくも。もっと 上手に プレーできるように がんばるって、約束するよ。そして、君を 打ったり しないようにもね。」

トビーが ラケットを 手（て）に 取（と）ると、
試合（しあい）が 再開（さいかい）しました。うれしい ことに、
アーサーと トビーの チームは、その回（かい）
試合（しあい）に 勝（か）つ ことが できました。

バドミントン試合（じあい）が
終（お）わると、4人（にん）の
子（こ）どもたちは しばふの
上（うえ）に ねっころがって、
ふわふわの 雲（くも）を
ながめました。夕日（ゆうひ）を
あびて きれいな 色（いろ）に
そまった 雲（くも）は、静（しず）かに
空（そら）を 流（なが）れていきました。

トビーは、その日（ひ）
1日（にち）のことを 思（おも）い出（だ）し、
ハグして ほほえもう
デーが どうだったかを
考（かんが）えていました。確（たし）かに、
愛（あい）を 分（わ）かち合（あ）うのが
かんたんな 時（とき）も あれば、
とても むずかしい 時（とき）も
ありました。けれども、
それが むずかしい 時（とき）で
あっても、かんたんな
時（とき）と 同（おな）じように、愛（あい）を
分（わ）かち合（あ）う ことが
大切（たいせつ）だと わかりました。

トビーは、たとえ つらい 時でも、イエス様が いつも自分に 愛を 注いでくださる ことを 考えていました。イエス様の 愛は たえる ことが なく、条件も なく、いつも そこに あるのです。そう 考えると、トビーは思わず ほほえみました。しばふの 上に ねころびながら、トビーは 祈りました。行いにおいて、ハグやキスや ほほえみや 親切を する ことで、祈りを通して、そのほか いろいろな 方法で、まわりの人たちに 対して、これからも イエス様の 愛を 表す良い お手本で い続ける ことが できますように。

「たがいに 愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの 弟子である ことを、すべての 者が みとめるであろう。」
（口語訳聖書、ヨハネによる 福音書 13:35）

文：デヴォン・T・ソマーズ　絵：ゼブ　デザイン：クリスティア・コープランド
出版：マイ・ワンダー・スタジオ
Copyright © 2012年、ファミリーインターナショナル
“Pass-a-Hug-and-Smile Day”--Japanese
http://www.mywonderstudio.com/0-5/2012/1/16/pass-a-hug-and-smile-day.html